

DiNQLシステムを 大幅リニューアルします！

第1回 ベンチマーク評価機能の強化～配信レポート(仮称)の提供～

データに基づく看護の質向上を目指し、労働と看護の質向上のためのデータベース(DiNQL)のITシステムを2023年度から大幅に改善します。今回のリニューアルでは「入力負担の軽減」と「データ利活用の促進」を図り「事業参加のしやすさ」につながることを期待しています。

本連載では3回にわたり、リニューアルのポイントをご紹介します。

ITシステムの見直し

DiNQL事業は、看護職が健康で安心して働き続けられる環境整備と看護の質向上を目指し、データに基づく看護実践の可視化と質改善活動を支援しています。これまでに900を超える病院が参加し、質の評価と改善活動に取り組んできました。病棟単位かつ月単位での質評価と継続的な改善活動により、取り組み成果を実感される病院が増える一方で、データ収集・入力負担感や、データ利活用がうまく進まない現状も指摘されています。そこで、DiNQL事業では課題の整理を行い、事業の在り方とITシステムの見直しを検討してきました。特にITシステムの機能強化は、参加病院のニーズが高く、早期に実現できるよう優先的に取り組んでいます。

配信レポート(仮称)の提供を開始

今回のITシステムの見直しの一つとして、参加病院が簡潔に病院・病棟の現状を把握でき、結果の読み取りがしやすくなるよう、病院・病棟の状況を一目で把握できる「配信レポート(仮称)」を提供します。

DiNQLでは看護に関する共通した指標(全172項目)を用いて看護実践を数値化することで、院内の他部署や他病院と比較したベンチマーク評価ができます。目的や課題に合わせて必要な指標を選択し、評価することで、自院・自病棟の立ち位置や強み、弱みを把握できます。一方で、項目が多いため、必要なデータが分からない、結果の複合的な読み取りが難

図：病棟向け配信レポート(仮称)のイメージ



※画像は開発中のイメージイラストであり、実際のサービスとは異なる可能性があります。

しいといった課題がありました。

本レポートは「病棟向け」と参加病棟全体の状況を俯瞰できる「看護部向け」の2種類があり、DiNQLでもより活用されるアウトカム(褥瘡、感染2種類、転倒・転落、医療安全、身体的拘束、労働環境)を中心に現状を示しています。また、アウトカムごとに、関連するデータも併せて掲載されており、より詳細な状況が把握できます。

本レポートは四半期ごとの配信予定ですので、改善活動の進捗の把握や定期的な現状把握などの活用が期待できます。

①主なアウトカム
7つのアウトカムについて一覧で示す。

②評価
「同規模(病院の病床数が同程度)」「同機能(同じ入院基本料/特定入院料を算定する病棟)」「院内(院内の全病棟の平均値)」との比較結果を示す。

注目すべき項目には、コメントを記載する。

③主なアウトカムに関する個別状況

各種条件(自病棟、同規模、同機能など)での比較結果や、2年間分の自病棟の経年変化を示す。

④関連データ
アウトカムに係る項目を一覧で示す。
※③と④については、①のうち1つのアウトカムに着目した結果を示す。